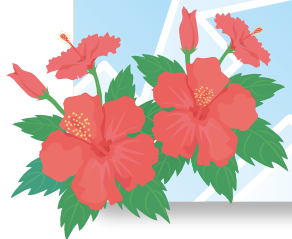


サマージャンボ等宝くじ 特設売店紹介



このコーナーでは、宝くじの販売促進策のうち、本協会が実施している「サマージャンボ等宝くじ特設売場」について紹介します。

この取り組みは、サマージャンボ等宝くじの発売期間、市町村役場の売店や公民館などの公共施設内の売店、地域の物産店等に特設売店を設置して、サマージャンボ等宝くじを販売していただくというものです。今年度も全国で31道府県119売店に特設売店を設置していただき、販売促進策にご協力いただきました。その中で、今号では沖縄県の「道の駅ぎのぞ」の売店を紹介します。

道の駅ぎのぞ (沖縄県国頭郡宜野座村)

那覇から路線バスで約2時間30分、「道の駅ぎのぞ」は、沖縄本島ほぼ中央の東海岸沿いに位置し、目の前には太平洋が広がるのどかな風景の中にあります。この道の駅は、もともと地域の農産物センターとして営業していましたが、昨年の10月に道の駅としての認可を受け、沖縄で8番目、沖縄東海岸では第1号の道の駅として営業を開始しました。

宜野座村は、人口約5,600人。阪神タイガースの春季キャンプ地としても有名ですが、「水と

緑と太陽の里」ということで、この地域では、マンゴーやスナックパイン（ボゴールパイン）、ドラゴンフルーツ、へちま（ナーベラ）等、南国沖縄らしい農産物が多く生産され、他にも海ぶどうや、モズクなど、豊かな自然に育まれた、多くの特産物があります。

道の駅ぎのぞでは、こうした特産物など様々な商品が販売されていますが、中でも、マンゴーは、宜野座村が県の拠点生産地として認定を受けているため、多くの農家がマンゴーを生産し、この道の駅に卸しているそうです。ちょうど今のシーズンは最盛期で、店頭には多くのマンゴーが並べられていました。



ナーベラ (へちま)



旬のマンゴーが並ぶ店内



海ぶどう



沖縄名物サーターアダンギー



屋根に掲げられた大きな横断幕



店内での販売の様子



入口やレジのPOP



そんな、「道の駅ぎのぞ」では、宜野座村役場からの呼びかけがきっかけで、今年からサマージャンボ等宝くじの販売を開始しました。

少しでも多くの枚数を販売したいと、屋根の上に国道からも見えるような大きな横断幕を掲げたり、入口やレジに張り紙をしたり、館内放送を行ったりと、ここで宝くじを販売しているとお客さんに知ってもらえるよう大々的にPRを行っていました。

もともと、宜野座村には、宝くじを購入する場所がなく、隣町まで行かないと買える機会がなかったので、『『野菜を買ったついでに10枚』など、地元の方にとって、いい機会になったのでは』、とこの道の駅の担当者は話します。

PRの効果が功を奏してか、当初販売を予定していた枚数は売り切れ、さらに追加で券を発注するほどの大盛況。発売期間中にこの道の駅で村の産業祭りも開催されたためか、発売終了後

に取りまとめられた集計では5700枚と、全国119の特設売店の中でトップとなりました。

担当者は、「サマージャンボを販売していることを浸透させて、来年はもっともっと売上げを伸ばしたい」と意気込んでおられました。

今回訪れた売店は、沖縄の海と豊かな自然がいっぱいで太陽のエネルギーを感じる場所でした。まさに、サマージャンボのイメージにぴったりの売店でしたので、こんな素敵な売店から、今後、サマージャンボで大きな当たりが出ることを期待します。



「道の駅ぎのぞ」の目の前に広がる美しい海

